

【説明資料】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的、利用方法、作品自体やその製作過程で工夫したことを、文章、写真、図などで説明。この用紙1枚に記入し、PDFファイルに変換した後、ホームページに貼り付けてください。

学校名	熊本大学	個人・グループ名	畠山雄一	作品名	木製姿見
-----	------	----------	------	-----	------

● 製作の動機・目的

木材加工技術の向上を目指し、身の回りで役立つものを作ってみようと考えていた。家族に聞いてみた結果、外出する際に全身用の鏡があったらいいなと言っていた母の為に、この「木製姿見」を製作することにした。

● 利用方法

見やすい場所に常設し、いつでも使えるようにする。

<全体図>



直線と曲線の融合デザイン

● 特徴・工夫点

- ・ 鏡と土台をつなぐコクタンのピンをテーパ状にし、鏡の角度を必要に応じて調整することができるようにした。ピンは卓上ベルトサンダで自作した。
- ・ 材料は主にタモを使用。脚と脚の補強材のマツ、鏡と土台の接合ピンのコクタンは廃材を再利用した。
- ・ クギを使わず、様々な接合法（留め型三枚継ぎ、止めホゾ、通しホゾ等）と接着剤で接合した。
- ・ 直線を基本に、ポイントに曲線を組み合わせたデザインにした。
- ・ 脚の形状を工夫し、安定するようにした。脚があるので立て掛ける必要がない。
- ・ 鏡の裏にパーティクルボードをはさみ、鏡がたわまない工夫をした。
- ・ 鏡の枠の内側の段差は、ルーターで大まかに削った後カンナで仕上げた。
- ・ 左右の土台をつなぐ部品は、通しホゾに通してあるピンによって留めてあるので、ピンを抜くと分解することができ、鏡の取り付けや移動が簡単にできるようにした。